

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1-1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

3月号

(第174号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

阿弥陀仏に帰依し浄土往生を願う



正信念仏偈に学ぶ
天親菩薩論註解
報土因果誓願
天親菩薩の「論」を註解して、報土の因果誓願に願う。

「現代語訳」
天親菩薩の『浄土論』を註釈して、浄土に往生する因も果も阿弥陀仏の誓願によることをあきらかに願う。

曇鸞大師のご生涯を、親鸞さまは『高僧和讃』に八首続けて詠まれます。現代語訳によると、
①東魏の孝静帝は、曇鸞大師のもとを訪れ、浄土への往生を願う理由について、「あらゆる仏がたの国々はみな清らかなのである。なぜ西方にある阿弥陀仏の浄土に限るのか」と問うた。

②曇鸞大師は「わたしは智慧が浅い凡夫であり、いまだ不退転の位に至っていないの
で、あらゆる浄土を等しく念じるには力がとうてい及ばない」と答えられた。
③出家のものも在家のものも、みな帰依するところをもたず迷っている中で、曇鸞大師はただ一人、阿弥陀仏に帰依し、その浄土への往生を願うよう勧められた。

④曇鸞大師は、東魏の孝静帝の勅命を受け、并州の大巖寺に住まわれていたが、晩年に至り、汾州の玄中寺に移られた。
⑤東魏の孝静帝は、曇鸞大師を深く尊んで神鸞とお呼びになり、お住まいになつていたところを鸞公巖と名づけられた。
⑥曇鸞大師は、玄中寺にお住まいになり、本願他力の念仏を盛んに勧めてくださいつた。東魏の興和四年に、平遥の山寺に移られた。

⑦曇鸞大師は、六十七歳で臨終の時を迎え、浄土に往生をとげられた。その時、尊く不思議な出来事がおこり、出家のものも在家のものも、みな帰依し敬った。

⑧孝静帝は深い敬いの思いから勅命を下し、速やかに汾州汾西の大陵にある名勝に曇鸞大師の廟を建てられた。
と詠まれています。当時の中国皇帝にも敬われた曇鸞大師のご生涯を親鸞さまは讃えられています。
この中でも、曇鸞大師みずから、わたしは智慧が浅い凡夫であり力がとうてい及ばないものであるといわれ、阿弥陀仏に帰依し、浄土への往生を願うことを勧められたことがわかります。みな帰依するところを迷っている中で、ただ一人、浄土に往生する因も果も阿弥陀仏の誓願によることを明らかにされたのです。
そして、次の句から、浄土真宗の教えの中でも重要な部分に入っていきます。



仏教語豆事典

有り難い

文字通り「有ること難い」

「ありがとう」は、一般に感謝やお礼の心を表す日常語として常識になっています。

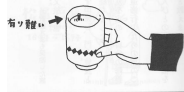
生物の先生に「現在この地球上には多くの生命が生まれているが、一番多いのは何ですか」と聞いたところ、バクテリアやウイルスなどミクロの世界の生物、微生物が多いそうです。

グラウンドへ行き「このいっぱい砂が地球上の生命の数だとしたら、人間の数は」と問うと、一握りの砂だと教えられました。

これでは人間に生まれる可能性は皆無でしょう。三千億分の一だという人もいます。三帰依文に「人身受け難し、今すでに受く、仏法聞き難し、今すでに聞く」とあるように、人間として生まれることや、仏の教えに遇うことは、なかなか難しく「有り難い」ことなのです。

「有り難い」は文字通り、有るのが困難、めったにない、珍しいという意味です。だからこそ、貴重である、かたじけない、もったいない、畏れ多いという感謝の気持ちを表す言葉になりました。

どんなときでも、誰に対してでもすなおに「ありがとう」と言えるように、なりたいたいものです。



天邪鬼

毘沙門天の足下を見れば

他の人たちが白といえばわざと黒というように、わざわざ他人に逆らう〈つむじ曲がり〉のことを、よく「あまのじゃく」といいます。

あまのじゃくは、瓜子姫の話など、日本各地の民間説話に多く登場しています。たいていはずるがしこくて、かわいげがありません。他人の心をよくさぐり、姿や物をまねたり、口まねをしたりして人に逆らいますが、最後には滅ぼされてしまいます。

仏教では、もともと毘沙門天が腹部につけている鬼面のことを海若といい、水神と考えられていましたが、後には毘沙門天の足の下に踏みつけられている二鬼を耐薫と呼ぶようになりました。

あまのじゃくは『日本書紀』に登場する天探女からはじまったという説もあるようですが、いずれに

してもあまり人に逆らってばかりいると、踏みつけられて、最後には滅びてしまいますよ。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社刊より

編集後記

とうとう米国も戦争を始め、世界が不穏な状況になっています。しかし、戦争の悲惨さを知る国々は、加担せず冷静な見方をしています。歴史を繰り返してはならない思いが、団結を生むことを願うばかりです。◆あらためて、親鸞さまの「世のなか安穩なれ」のお言葉が思い起こされます。

年忌法要表

1周忌	2025(令和 7)年	23回忌	2004(平成16)年
3回忌	2024(令和 6)年	25回忌	2002(平成14)年
7回忌	2020(令和 2)年	27回忌	2000(平成12)年
13回忌	2014(平成26)年	33回忌	1994(平成 6)年
17回忌	2010(平成22)年	50回忌	1977(昭和52)年